

【一】 次の傍線部の漢字をひらがなに、ひらがなを漢字に直しなさい。ただし、送り仮名まで書くこと。（知識・技能 計10点）

- ① 道路を舗装する。
- ② 我慢を強いる
- ③ 辛い目に遭う。
- ④ 爽やかな風。
- ⑤ 規制を緩和する。
- ⑥ 市のいりよう機関。
- ⑦ そぼくな疑問。
- ⑧ 総体でかつやくする。
- ⑨ あわい色のペン
- ⑩ 眠りをさまたげる。

【二】 次の文法の問題について答えなさい。（知識・技能 計10点）

- (1) 次の文における傍線部①～⑤の単語について、当てはまる品詞名を後のア～ケの中から一つ選び、それぞれ答えなさい。（各1点）

☆ 雨の上がった空に、^①みごとな虹が^②くつきりと浮かんた。^③それを見て、姉は

「^④まあ、とても素晴らしい虹なこと。」と、^⑤ほめちぎった。

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 形容動詞 オ 副詞 カ 連体詞 キ 接続詞 ク 感動詞 ケ 台無詞

- (2) 次の①～⑤の単語のうち、活用する単語には○を、活用しない単語には×をそれぞれ書きなさい。（各1点）

- ① 静かだ ② ゆっくり ③ 楽しい ④ 解く ⑤ テスト

【三】 次の短歌について、下の問いに答えなさい。（思考・判断・表現 計21点）

A のぼり坂のペダル踏みつつ子は叫ぶ「まっすぐ?」、そうだ、どんどのぼれ 佐佐木 幸綱

B ぽぽぽと秋の雲浮き子供らはどこか遠くへ遊びに行けり 河野 裕子

C 轡賢車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生

栗木 京子

D くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる

正岡 子規

(1) Aの短歌について、「子は叫ぶ」とあるが、子が何をしているときのことだと考えられるか。二十字以内で書きなさい。(3点)

(2) Aの短歌について、この短歌の表記の特徴として挙げられることを簡潔に書きなさい。(3点)

(3) Aの短歌について、この短歌から感じられる内容として適切なものを、次から一つ選び記号で答えなさい。(3点)

A 会話を生かした表現で日常生活のひとこまを想起させるとともに、子を温かく見守るまなざしも感じられる。

Iのぼり坂でペダルを踏む緊張感と、厳しい練習を重ねる子の真剣さやそれを激励する大人の様子が感じられる。

ウのぼり坂でペダルを踏む子をはげましながら、立派に成人した後ろ姿を誇らしく思う気持ちを感じられる。

E子の問いかけに答えつつ、子がまっすぐに成長するよう戒める態度が、厳しい命令形の表現から感じられる。

(4) Bの短歌について、「ぼぼぼ」とは、何の・どんな様子を表しているか。Bの短歌中の言葉を使って書きなさい。(3点)

(5) 左の文章は、Bの短歌について説明したものである。左の文章中にある、(1)に入る内容を書きなさい。(3点)

☆ 空高く秋の雲が浮かぶのを見上げながら、(1)と、穏やかな一日をつたっている。

(6) Cの短歌について、「我」は誰と・何をしているのか。十五字以内で書きなさい。(3点)

(7) Cの短歌について、「我」はどのような気持ちだと思われるか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

A 先のことなど考えずに、今を最大限に楽しもうと思っている。イ良いことは長続きしないと、冷静に考えて諦めている。

ウ 相手と自分の思いの大きな隔たりに、切なさを感じている。エ初めて訪れた幸せな時間に、相手のことだけを考えている。

四 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。ただし、全て句読点は一字に数える。

(思考・判断・表現 計21点)

あの黒っぽいこつこつした桜の皮から①この美しいピンクの色がとれるのだという。志村さんは続けて②こう教えてくれた。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前の頃、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色を取り出せるのだ、と。

私はその話を聞いて、③体が一瞬揺らぐような不思議な感じに襲われた。春先、もうまもなく花となって咲き出でようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている姿が、私の脳裏に揺らめいたからである。花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいていて、花びらはいわば④それらのピンクが、ほんの尖端だけ姿を出したものにすぎなかった。

考えてみればこれはまさにそのとおりで、木全体の一刻も休むことない活動の精髓が、春という時節に桜の花びらという一つの現象になるにすぎないのだった。しかし⑤われわれの限られた視野の中では、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えない。たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚く。

このように見てくれば、これは⑥言葉の世界での出来事と同じことではないかという気がする。言葉の一語一語は、桜の花びら一枚一枚だといっていい。一見したところ全然別の色をしているが、しかし本当は全身でその花びらの

(1) ①この美しいピンクの と対比されている
言葉を本文中から十字で書き抜きなさい。

(3点)

(2) ②こう教えてくれた とあるが、「こう」が
指す部分の初めと終わりの四字をそれぞれ書きなさい。

(3点)

(3) ③体が一瞬揺らぐようなくに襲われた
とあるが、筆者は桜の木のどんな姿を思い浮かべたのか。三十字以内で探し、初めと終わりの四字をそれぞれ書きなさい。

(3点)

(4) ④体が一瞬揺らぐようなくに襲われた
の表現から、最も強く感じられる筆者の気持ちとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

(3点)

ア 疑問 イ 感動 ウ 不安 エ 歓喜

(5) ⑤それらのピンクとあるが、これは何のピンクなのか。文章中の言葉を使って十字以内で書きなさい。

(3点)

(6) ⑥われわれの限られた視野 とあるが、
このように筆者が述べた理由を次から一つ選び、記号で答えなさい。

(3点)

色を生み出している大きな幹、それを、その一語一語の花びらが背後に背負っているのである。そういうことを念頭におきながら、言葉というものを考える必要があるのではなからうか。そういう態度をもって言葉の中で生きていこうとするとき、一語一語のささやかな言葉の、ささやかさそのものの大きな意味が実感されてくるのではなからうか。美しい言葉、正しい言葉というものも、そのとき初めて私たちの身近なものになるだろう。

(大岡 信『言葉の力』より)

〔五〕 次の、国語についての問題に答えなさい。ただし、全て句読点は一字に数える。(知識・技能／学びに向かう力 計10点)

(1) 授業で用いた、「文章の大切なところを短くまとめる」技術を何というか。漢字二文字で答えなさい。(2点)

(2) 短歌の基本的なリズムを漢数字で書きなさい。(例 俳句は五・七・五)(2点)

(3) 「大きな」という単語が「形容動詞」ではなく「連体詞」だといえる理由を一つ説明しなさい。(2点)

(4) あるものを、性質の似ているものに例える表現技法を「比喩」という。比喩の一種で、「人でないものを人のように」例える表現技法は何という名前か。漢字で答えなさい。(2点)

(5) 二年生になってから、国語の教科書の文章内で「出てきていない」生物は次のどれか。一つ記号で答えなさい。(2点)

ア 人間 イ アナコンダ ウ クマゼミ エ 鯨 オ ナマズ カ 白鳥 キ 恐竜 ク つばめ

ア 桜の木の皮には注意していないから。
イ 桜の咲いたときにしか桜を見ないから。
ウ 木全体にまで考えが及ばないから。
エ 木も生きていることに気づかないから。

(7) ⑥ 言葉の世界での出来事と同じこととあるが、言葉の世界ではどのようなことが言えるのか。「人間全体」という語を使って、ということに続く形で三十字以内で書きなさい。(3点)

六 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。ただし、全て句読点は一字に数える。

(思考・判断・表現 計18点)

① トチは人体に有害なサポニンを含むことから、アク抜き(トチに灰やあくを混ぜてサポニンを除去する)技術の獲得なくしてはその利用はあり得なかった。しかしながら、アク抜き技術の痕跡は、考古学的な遺物や遺構としては残りにくいことから、未だに縄文時代のどの段階でアク抜き技術が確立したかは不明である。ちなみに全国の遺跡から出土したトチを時期別に分けると、後・晩期はもろんだが、中期の遺跡からの出土例も多い。(【図】参照) 早期・前期に至っては少なく、確実な例もないことから、現在の段階ではトチのアク抜き技術が開始されたのは、縄文時代中期段階とするのが最も妥当と考えられる。

② アク抜き技術を獲得して本格的にトチを食料とし始めたのが、縄文時代の遺跡数が爆発的に増加している時期、つまり①人口が著しく増えた中期であった点は重要である。アク抜き技術によってトチが食料リストへと組み込まれ、安定した食糧自給を背景として人口が増えたのではないだろうか。トチが他のドングリに比べて際立って優れている点は、その大きさにもあったと考えてよいだろう。(【表】参照)

楕円形の形態が多いドングリの中で球体のトチは、大きさのみならずその重量も突出していて、クリ・クヌギの四倍、コナラやミズナラの一〇倍もの重さを持っている。加えて見過ごせないのが採集効率のよさである。③ 畠山剛氏の実験では、同じ時間で拾ったコナラ、ミズナラ、トチの数量を比べると、それぞれ一対一・五対七となり、断然トチを拾った方が効率が良いことが分かっている。

③ また、トチの木が栗やクルミなどとは違って、樹齢を重ねても収穫量が落ちないことも見逃せない。クリは二〇〜三〇年をピークに収穫量が著しく落ちてしまうが、トチにはそれがない。しかもトチは沢沿いの傾斜面に群生する場合が多く、落下したトチの実が転がって沢水のたまった場所や平場に、重なるように集まる。その大きさも含めて、④ 採集にはこれ以上はないというくらいに好都合な木の実がトチなのである。トチは他のドングリに比べてカロリーが高く、この点も加味すれば、縄

(1) 【図】を示すことには、どのような効果があるか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

ア 遺跡から出土したトチの量を分かりやすくする効果。

イ トチの出土遺跡数を時期ごとに比べやすくする効果。

ウ トチのアク抜き技術が確立した時期を特定する効果。

エ トチが食料として優れていることを強調する効果。

(2) ①人口が著しく増えたのは、なぜだと筆者は考えているか。次の文の(A)に入る言葉を文章から八字で書き抜きなさい。

☆トチによって(A)が可能になったからではないか。

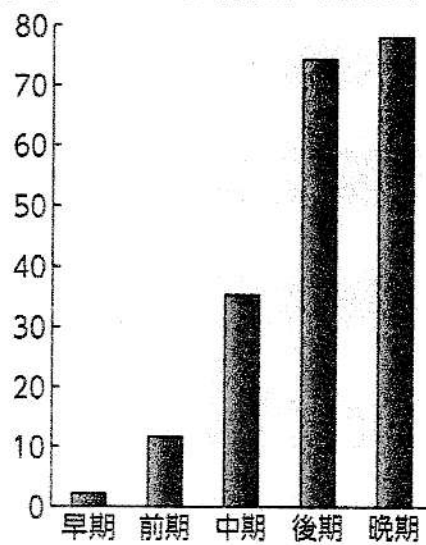
(3) 【表】のaとdには、それぞれトチ・クリ・コナラ・ミズナラのどれかが入る。トチが入る場所の記号を一つ答えなさい。(3点)

(4) ② 畠山剛氏の実験とあるが、これを紹介したのは何を述べるためか。簡潔に書きなさい。(3点)

文人にとってアク抜きという手間をかけてもトチを食料とするのには大きなメリットがあったのである。

(「栗島義明『森の資源とその利用』より)

【図】トチの時期別出土遺跡数



【表】堅果類の大きさとカロリー

種類	長さ	幅	重量	カロリー
a	23.8mm	11.8mm	1.9g	284cal
b	21.2mm	12.4mm	1.8g	287cal
クヌギ	19.7mm	19.8mm	4.8g	202cal
アラカシ	14.5mm	9.0mm	0.6g	235cal
イチイガシ	20.1mm	12.3mm	1.2g	252cal
マテバシイ	25.4mm	14.4mm	2.7g	236cal
c	24.1mm	24.3mm	4.8g	156cal
d	30.5mm	30.5mm	21.1g	365cal
クルミ	34.1mm	27.1mm	7.5g	673cal

堅果類＝ドングリなどの堅い実をもつ実。

(5) ②の段落は、①の段落に対してどのような関係になっているか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア ①段落の内容を否定する内容を述べている。
 イ ①段落の内容を受けさらに論を進めている。
 ウ ①段落の内容について根拠を述べている。
 エ ①段落の内容について具体例を挙げている。

(6) 採集にはこれ以上は都合が合わない。なぜか。次の文の(B)に合うように、三十文字以内で書きなさい。(3点)

☆トチは樹齢を重ねても収穫量が落ちず、(B)から。

(思考・判断・表現 10点)

七 次の1～5の条件に従って「鑑賞文」を書きなさい。

1. このテストの三に載っているA～Dの短歌について一つ選び、原稿用紙の書き方に沿って「〇〇字以上」「四〇字以内」で書くこと。題名・氏名は必要ありません。※この条件を守れないと得点になりません。
2. 二段落構成で書き、一段落目には自分が選んだ短歌(Aの短歌を選んだ、のような書き方でよい。)と、その短歌から自分が読み取った情景(風景や選んだ短歌に込められた気持ち)を書くこと。

3. 二段落目には、選んだ短歌で使われている表現技法と、その短歌について自分が考えたことを書くこと。(完答)

4. 文体は常体(「だ・である調」)で統一して書くこと。

5. 誤字・脱字や文法の間違い、原稿用紙の使い方に注意して、丁寧な文字で書くこと。